



モデルワーゲン Model Information



既に設計が終わっている製品はいくつもありますが、いずれもリリースのタイミングを計っているような状況。今回はその中から新製品の御紹介も交えて予定品の一部を御紹介致します。

当社で現在進行させているシリーズは、**林鉄・簡易軌道・井笠**の3つ。いずれも目が離せない魅力を持っています。

貴方もモデルワーゲンの世界にドップリと浸ってみませんか？

林鉄シリーズ

木曽の酒井製 8t ボギーDL II (木曽の No.121、青森の L-077)

まだ出来立てで湯気が立っているような、新製品です(^_^)。

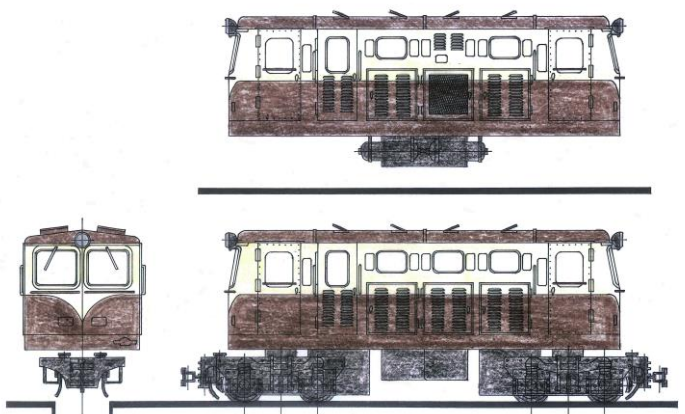
以前製品化した 8t ボギーはカプラーがボディーマウントでしたが、今回の製品は台車マウント。

と、書くと、カプラーマウント方式の違いだけのように思われてしまいますが、実は結構相違点があります。

まず車体長が短いこと。つまりカプラーが台車マウントになった事によって、ボディーが短くなった(逆か?) 訳で、模型にしてカプラー間が約 5mm も短くなっています。パッと見たときに「8t ボギーDL I」はデッキもある事などから、10t ボギーDL とスタイル的にも大ききながらもあまり変わらないように見えますが、流石に 5mm も短いと明らかに小ささが実感されます。

ボディーが短くなった事により、機関室ドアが左右側面 1ヶ所だけとなり、よりコンパクトになった印象を受けます。

8t という文字通り中クラスの大きさという世界を持ったボギーDL、それが「木曽の酒井製 8t ボギーDL II」で、正面とドアにテスリの無い「青森」と、青森から移管されてテスリを付けた「木曽」の2種類で発売です。



木曽の No.121 (ex. 青森の L-077)



木曽の C 型客車 (1 段下降式窓、2 段上昇式窓)

これもまた、今月出来上がったばかりの製品です(^_^)。

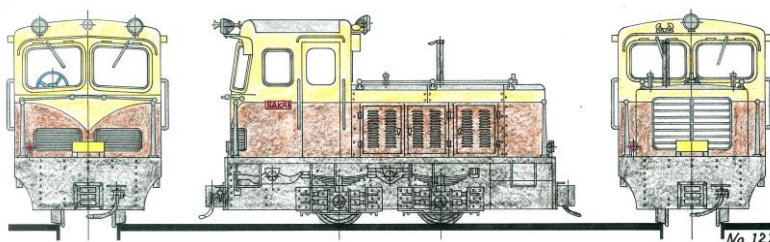
1 段下降式窓と 2 段上昇式窓とは単に窓枠の違いかと思ったら大違い。実は窓の大きさも違いますし、窓の上の幕板の幅も、窓の下のウィンドウシルの幅も違います。要するに似て非なる車両なのですね(^_^)。

5 年前に製造した時にはデラックス版のインテリア付きでしたが、今回はそれを除いたエコノミー版も追加致しました。

木曽のキャブフォワード III

フルインテリアまで装備され、完成され尽くしているので、何も加えるものもありません(^_-)。

そのままの感じで 122・128・130・133・134・135・140 号機、7 種類総てを再生産致します。



No.122



簡易軌道シリーズ

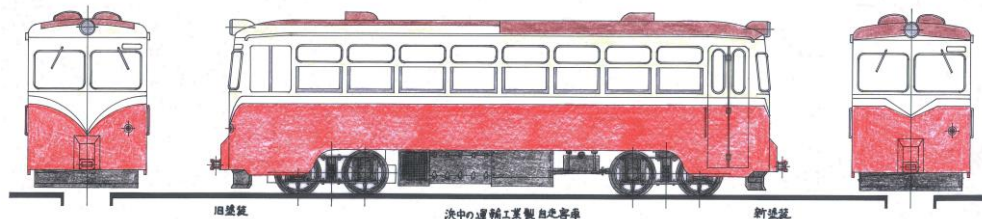
浜中の運輸工業製自走客車

先月出来上がったばかりのオニューです(^_^)♪。

茶内線には運輸工業製の8t自走客車が2両居ました。1両は藻琴線昭和40年に廃止されて転属してきたもの。1両は茶内線初の自走客車で生粋の浜中っ子です。

前者は昭和35年2月製で、釧路製や泰和製などとは一風違う異様な面構えを廃車まで保っていましたが、後者は同年3月に製造された兄弟車ながら、正面下部が欠き取られる改造をされたため「異様度」は若干薄らいでしまいました。

今回製造したのは藻琴線から転属してきた方で、ドア蹴込みラインまで下がった正面の裾、もっこり出っ張ったカプ



ラマウントの補強部、横長の正面窓、ズルッと落ちるオデコのライン等々。運輸工業らしい魅力がムンムン詰まったデザインにノックアウトされそうです。

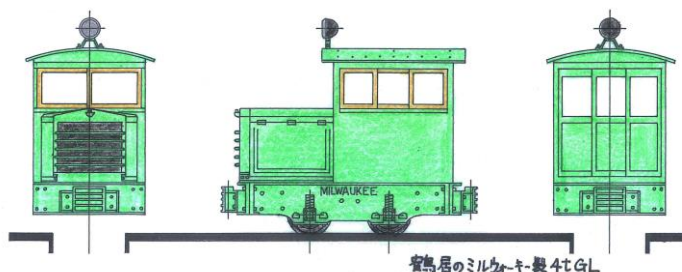
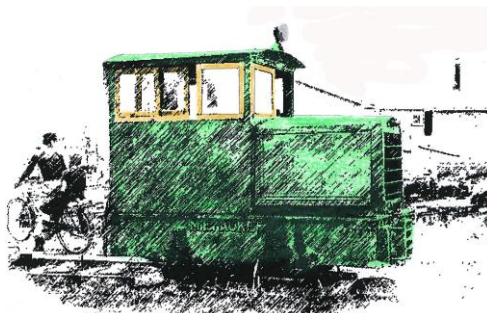
鶴居のミルウォーキー製 GL

ミルウォーキーはプリマウスやホイットコムと並んでアメリカの老舗内燃機車両メーカーで、内燃黎明期の日本にも少なからず導入されました。

道東に網のように張り巡らされていた簡易(植民)軌道のうち、大正14年に馬力線で開通した根室線(かつての標津線厚床~中標津~根室標津の原型)は昭和4年に真っ先に内燃化され、その時代に写した写真には、ホイットコムと並んでミルウォーキーのGLがよく登場しています。

その後、各軌道が内燃化されるにつれ、それらのGLたちは分散配置され、ここ鶴居村営軌道にも流れて使われていました。

小さなボンネットに掘っ立て小屋のようなキャブを付けた簡素な形、それでいて台枠には誇らしげにMILWAUKEEの文字が鋳出しされ、どことなく愛らしいスタイルは、まさにマスコットの存在として、皆さんの軌道でも活躍してくれる事でしょう。



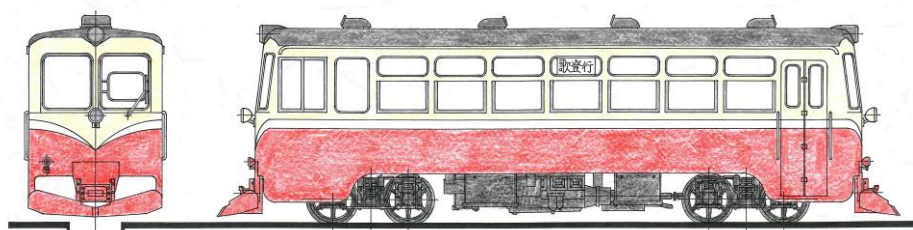
鶴居のミルウォーキー製4t GL

歌登の泰和製自走客車

泰和車輛は道内のメーカーで、簡易軌道には様々な車両を納入していました。他には釧路製作所や運輸工業などもありましたが、泰和は少ない予算内で優れたものというポリシーが感じられるメーカーで、外リンク式の揺れ枕を持った台車枠など、他に例を見ない画期的な製品作りをしていました。

浜中の泰和製自走客車では逆に当社が予算に縛られて果たせなかったこの独特の台車枠を、今回ようやく導入する事が出来ました。

歌登らしいオヘソのライトや大きなスノウプロウなど、見どころも満載です。



歌登の泰和製自走客車

鶴居の泰和製 4tDL

これは去年の夏の取材の成果です(^-)-☆。

一見して釧路製 8tDL II に似ていますが、動輪径が小さくて腰が低い事、エンドビーム&カブラーの形状、ヘッドライトがボンネットの鼻先にあること、動輪間に砂箱があることなどによって、結構感じが違って見えます。

これも釧路製と並べて楽しみたいアイテムではないでしょうか？

浜中の釧路製牽引客車

丸っこい感じが標茶の運輸工業製牽引客車に似ていますが、それは正面が折れ妻になっていることぐらいで、何とミルクカーと同じ貨車用の台車を履いているために腰が低く、それで鈍重な感じがします。

初期は妻面上方に標識灯が2個あり煙突もありましたが、末期にはこれらは無くなり、雨樋も短くなってしまいました。自走客車とのペアも良し、ミルクカーとの混合編成も楽しい客車です。

泰和製ロータリー式 8.5tDL II

アナウンスを解禁します(^-)。今から 16 年も前に一度だけ「浜中のロータリーDL」として少量製造した幻の製品を改良生産致します（右の模型は以前のものです）。

最近では新製品の引き立て役として、シオラマの片隅にアウトフォーカスで写っていたもので、皆様から「あのロータリーDL をもう一度！」というお声にお応えして、今の製品レベルで新規に設計し直して製造する事に致しました。

このロータリーDL は 1962 年と 1963 年に泰和車輛で製造され、浜中・別海・標茶にそれぞれ導入された本格的な除雪 DL で、北海道の簡易軌道を演出するには不可欠な存在でしょう。

実車の図面が手元にあるので、大きさなどの変更はありませんが、B-1 という特殊な軸配置ですから重いロータリーヘッドとのバランスを取るのに苦労しました。

簡易軌道シリーズを集めてらっしゃる方でしたら 1 両は絶対に欲しい(3 両?)、この目を惹くスタイリング。

きっと雪解けまでには間に合って、皆様の軌道でも除雪に活躍してくれる事でしょう(^v^)。

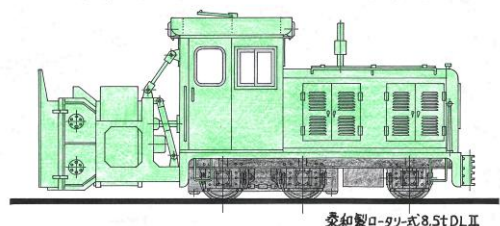
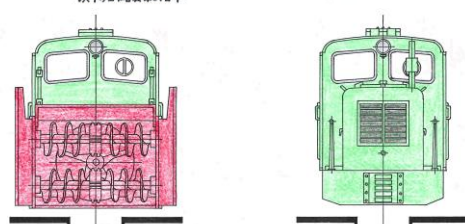
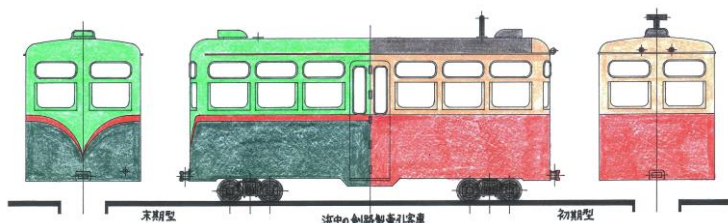
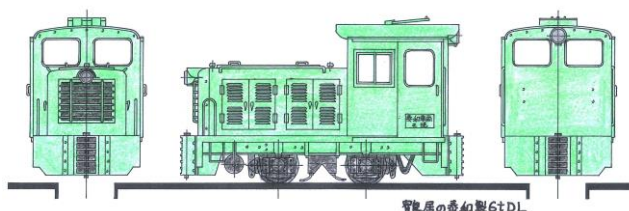
浜中のミルクカー II

細密なロストと実車で木製の部分には目の細かい木製としたハイブリッド製品で、作り手のセンスによって木部が朽ちたようにも仕上げられるのが最大の魅力です。

いわば森林鉄道における運材台車のような存在ですから、簡易軌道のシーンには無くてはならない車両。

従って、在庫が無くなりそうになる度に再生産を繰り返している定番商品です。

これまた精密なロストワックスを使った集乳缶も御用意しておりますので、一緒にお楽しみ下さい。



井笠シリーズ

井笠のホジ 12

4年ぶりに再生産を致します。

このホジは数ある井笠の気動車の中でも小型に属するもので、片デッキであるため前後の表情が異なる「ひと粒で2度楽しめる」もの(〆〆)。

そんな事からか、意外と再生産を望む声が多くて、踏み切りました。

特徴ある台車枠はこの製品のために図面を描き下ろし、偏心台車は左右各1個、付随台車にひとつで合計3個ものロストワックス金型を新規に起こしましたので、軽快感のある台車枠の間からスポーク車輪が透けて見える醍醐味をお楽しみ下さい(ゝゝ)。

塗装済完成品では右の外観図のような金太郎塗りと、直線塗り分けの2種類の中からお選び頂けるようになります。



在庫のあるトータルキット (2014.09.27 現在)

林鉄シリーズ

木曽の酒井製 8t ボギーDLⅡ (木曽 No.121、青森 L-077) 木曽 ¥28000、青森 ¥27500

酒井製 F22 型 5t ボギーDLⅣ ¥26742

木曽の協三製 10tDLⅡ (126 号機初期型・晩年型、127 号機、141 号機) 各¥24480

酒井製 4.1tGL (極初期型・初期型) 各¥18000 杉沢の酒井製 5tDL (後期型) ¥22114

魚梁瀬の野村組製 DLⅡ ¥22114 藪原のプリマウス製 4tDL ¥25508

助六の酒井製 5tDLⅥ (61 号機・119 号機・132 号機、半開ボンネット) 各¥22422

助六の酒井製 5tDLⅥ (61 号機・119 号機・132 号機、全閉ボンネット) 各¥23451

上松の理髪車Ⅱ ¥17280

木曽の貴賓車 ¥11828 王宮の No.1 客車 ¥8742

木曽の B 型客車Ⅱ (王滝型 No.15・助六型) 各¥13165

上松の B 型客車 No.17 ¥9257

木曽の丸型タンク車 ¥6171 木曽の小型楕円タンク車 ¥6171

木曽の砂利運搬車 (2 両組) ¥10080

森藤式大型集材機 ¥5142 集材セット ¥1645



簡易軌道シリーズ

釧路製 8tDLⅡ ¥25508

鶴居の泰和製自走客車 初期塗装 ¥24994 中期・末期塗装 各¥25508

浜中の運輸工業製自走客車 (新塗装・旧塗装) 各¥25800

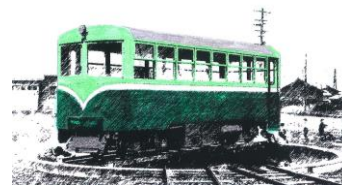
標茶の釧路製自走客車 ¥24480

鶴居の釧路製牽引客車 初期塗装 ¥14708 末期塗装 ¥14194

標茶の運輸工業製牽引客車 ¥14194

浜中のミルクカーⅡ ¥14194

集乳缶セット ¥4937



井笠シリーズ

井笠のホジ 9 ¥22422

井笠のホハ 18&19 各¥14194 井笠のホト 1~8 ¥10080

井笠のホワ 1 ¥11314 井笠のホワフ 1 ¥12857

沼尻シリーズなど

沼尻のボハフ 11 ¥15222 加藤製 3tDL ¥19285



(2014 軽便祭)